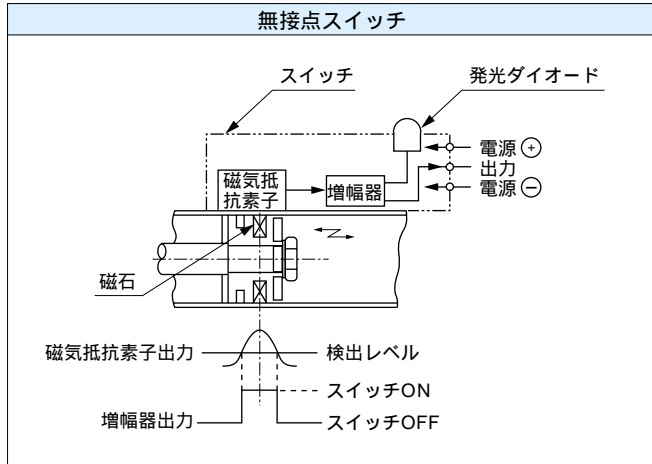
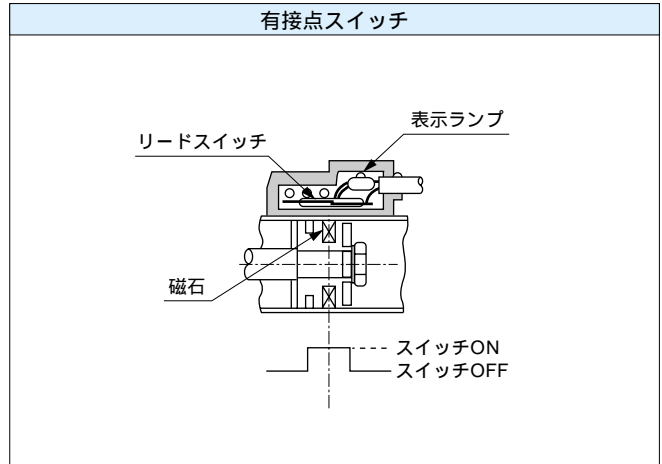


シリンダスイッチ

動作原理

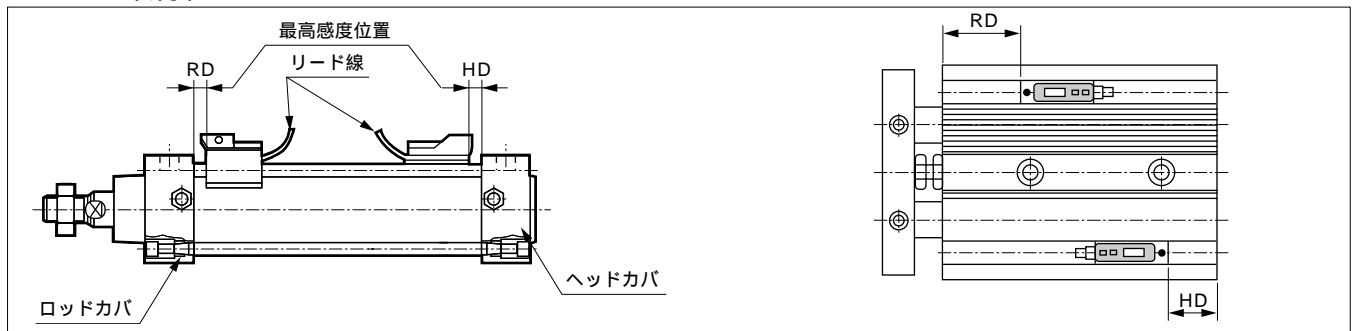


ピストン部磁石が接近することにより磁界に変化が生じ、磁気抵抗素子の出力電圧が、図のように変化します。この信号を増幅することにより、図のようなスイッチング出力が得られます。



ピストン部磁石が接近することにより磁界が生じリードスイッチの向い合った接点が磁化され、吸引力を生じ接点が閉じます。

スイッチ取付位置



ストロークエンド取付時

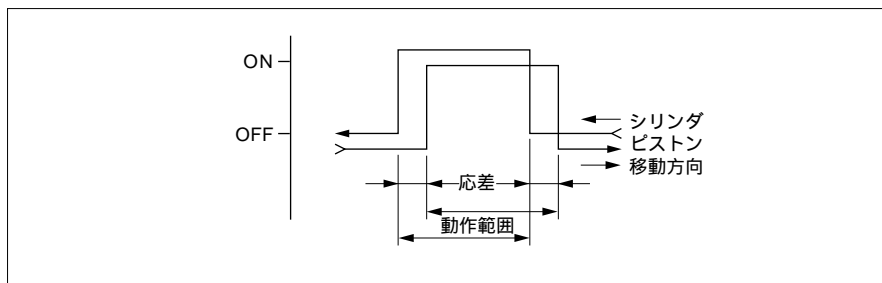
スイッチを最高感度位置で作動させるためにロッド側RD寸法、ヘッド側HD寸法の個所に各々、取付けてください。
 なお、HDとRD寸法はシリンダによって異なります。各々のシリンダの外形寸法図をご参照ください。
 また、スイッチの向きは上図のようにリード線が内側になるよう取付けてください。

ストローク中間位置取付時

ストローク途中で検出する場合は、停止する位置にピストンを固定しスイッチをピストンの上を前後に移動させ、スイッチが最初にONする位置を見つけ出します。その2つの位置の中間がそのピストン位置での最高感度位置であり、取付位置となります。

円周方向取付について

取付け金具によって異なります。バンド方式は円周方向では制限がありません。タイロッド方式については90°づつの回転ができます。レール方式については円周方向の回転はできません。



応差

ピストンが移動してスイッチがONした位置から、逆方向に移動して、OFFするまでの距離です。
 この間にピストンが停止するとスイッチの動作は不安定となり、外部の影響を受けやすい状態となります。ご注意ください。

動作範囲

ピストンが移動して、スイッチがONし、さらに同一方向に移動しOFFするまでの範囲をいいます。
 動作範囲の中心は最高感度位置です。この位置をピストン停止位置にセットしますと、外乱を受けにくく、スイッチの動作も安定します。